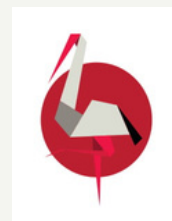


# 社会福祉法人 福田会 週次報告書

2022年8月30日 / Vol. 016



## 8月22日(月)～8月28日(日)の支援活動

支援所・学生寮への支援物資提供

レストランプロジェクト

食材支援



ご支援総額

2022年8月24日までの寄付総額 98,592,243 円

寄付金使用総額 1347986.17 zł (3,910万円)

8/22(月)～8/28(日)の期間中の寄附金使用額

30732.69 zł(約89万円)

食材支援参加の家族から、「私たちの故郷の味です。」と、手作りのウクライナ料理“ナレシニキ”を頂いた。クレープ生地に肉やチーズを挟んだもので、ウクライナ人に愛されている家庭料理の一つ。



## 活動内容

### 支援所・学生寮への支援物資提供

クラクフ中央駅地下のカリタス支援所と、ウクライナ人避難民46名が滞在する学生寮へ、支援物資を提供。カリタス支援所は平日12時～15時に運営しており、短い運営時間内に多くの利用者が訪れている。利用者は受付で欲しいものを伝え、スタッフが必要な数を手渡している。おむつ・シャンプー・洗剤・生理用品・歯磨き粉・缶詰の需要が非常に高い。



### レストランプロジェクト

4店舗と協力し1週間で約1030食を提供。9月から学校の新学期が始まるため、各店舗ともウクライナからの学生の需要が高まっているという。

### 食材支援（毎週金曜日）

28家族に1週間分の昼食用食材を提供。一人あたり50złの予算を設け、合計で3332.94 zł（約96,700円）分の食材を購入。



各参加者ともスーパーでの買い物に慣れ始め、参加者同士で自動レジでのスキャン作業を助け合う場面も多く見られた。

二人の子どもを持つ母親は、この食材支援で子どもたちの好きなお菓子を購入し、1週間かけて大切に分け与えているという。





レストランプロジェクトを利用していたこちらの家族はドネツク州から避難してきており、ポーランドでの生活等について下記のようにコメントを寄せてくれた。

私たちはポーランドに滞在して一ヶ月弱です。ポーランドの方が私たち家族を自宅に滞在させてくれています。

クラクフに辿り着くまでは困難な道のりで、夜間外出禁止令のため野宿をしたりと、到着に2日間を要しました。道中では様々なシェルターを訪れ、イヴァノ・フランキヴィスクのシェルターでしばらく休みました。その後、私たちは両親をスラヴィンスクから避難させる事にし、そのままポーランドに避難することに決めました。

私たちの長女メレニアは2014年と現在の2回、戦争を経験しています。2014年に私たちは地下のシェルターで生活していましたが、この経験があったため、今回はより力を尽くして避難生活を送っていました。しかし、それでも、12歳の長女は5回も学校の転校を繰り返しています。

だから私たちはここに避難してきたのです。ここに落ち着き、新しい生活を始めるために。

皆様の食事支援には本当に助けられています。これはとても便利で重要なものです。レストランのウクライナ料理は美味しく、ボルシュチュ、オクロシュカ、どれも本当に素晴らしいです。私の娘はオクロシュカ（冷製スープ）がお気に入りです。

私たちの故郷は破壊され帰ることが出来ないため、ポーランドで生きていかなければならず、このような支援をして下さる日本の皆様に心から感謝しています。

クラクフには子どものための無料の遊び場が沢山あり、子どもたちを沢山遊ばせることができます。街の雰囲気もとても良く、散歩をしていると、故郷で戦争が起きている事やすべてが破壊されてしまった事を忘れてしまうくらい、私たちを癒してくれます。

クラクフでの滞在は戦争のストレスを軽減させてくれるため、私たちはこの街がとても好きです。

日本の支援者の皆様に尊敬の念を込めて、感謝の言葉を贈りたいです。

ウクライナでの出来事に心を寄せ、温かい手を差し伸べてご支援して下さい、本当にありがとうございます。皆様のご支援はとても偉大で素晴らしいものであり、ウクライナ人の心の支えとなっています。



## 現地の動向

8月24日はウクライナの独立記念日であり、2月の侵攻から半年であった為、ポーランド各地でウクライナに関する催しが行われた。

大手スーパーチェーンではウクライナフェアが開催され、クラクフでは大規模なデモ行進が行われた。

ポーランド経済研究所によると、ウクライナへの侵攻が始まった2月から5月末までの間に、ポーランド人口約3800万人のうち推定77%がウクライナ避難民への支援に関わったとされている。

しかし、侵攻から半年が経過し、ポーランド国民のウクライナ支援のレベルは低下している。人々はここまで戦争が長引く事を予想しておらず、政府の支援策打ち切りによって、受け入れ側の余裕が無くなってしまった事が大きな要因だ。

無料で食事の提供を受けられる場所も次々閉鎖され、避難民の生活は非常に厳しいものになっている。

